

まちのヒカリ～北海道函館西高等学校「総合的な探究の時間」～

令和5（2023）年度の北海道函館西高等学校1年生による「総合的な探究の時間」は、「まちのヒカリ」をテーマに、西部地区においてフィールドワークを実施し、日常で見落とされがちなまちの魅力を高校生の目線で再発見する活動を行いました。

本活動については、公立はこだて未来大学も共催しており、フィールドワークやパネル制作を協働で行いました。

また、函館市が取り組んでいる函館市西部地区再整備事業に掲げる共創のまちぐらし推進プロジェクトおよび町会活性化プロジェクトの一環として、函館市西部まちぐらしデザイン室（函館市都市建設部まちづくり景観課）および株式会社はこだて西部まちづく Re-Design も、フィールドワークへの同行や町会等への周知、パネル展の開催などに協力しました。

令和5（2023）年4月からはじまった「まちのヒカリ」について、様子の一部をお伝えします。

<4月～5月>

探究ガイダンスを計3回実施し、「総合的な探究の時間」に関する概要説明やポートフォリオ作成演習を通して、探究への理解を深めました。

フィールドワークを実施するエリアにある町会には、公立はこだて未来大学の協力により制作したチラシを配付し、本活動の周知を行いました。

※ 総合的な探究の時間とは、探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を通して次の資質・能力を育成し、自らの在り方生き方を考えるものです。



<5月18日・25日>

公立はこだて未来大学の坂井田准教授から、フィールドワークの手法や目的などについて講話いただいた後、クラスごとに6つの活動エリア（青柳町，大町，末広町，宝来町，元町，弥生町）に分かれ、同大学学生の案内によりフィールドワークを計2回実施しました。

生徒たちの多くは西部地区に住んでいないことから、通学路以外の道を歩くこともはじめてという生徒もあり、函館山から海へと続く坂道や石畳など西部地区ならではの景観のほか、公園や街路樹，飲食店など、新鮮な気持ちで写真撮影を行っていました。

中には、地域住民や店舗の方にインタビューするグループもあり、積極的に社会と関わる姿勢が見られたことは、「総合的な探究の時間」の大きな成果ではないでしょうか。

フィールドワークの後には、教室に戻り、写真やメモを振り返りながら、「まちのヒカリ」の分析を行いました。

フィールドワークを通して、どんな「まちのヒカリ」を発見し、どんなパネルを製作するのか、楽しみです。



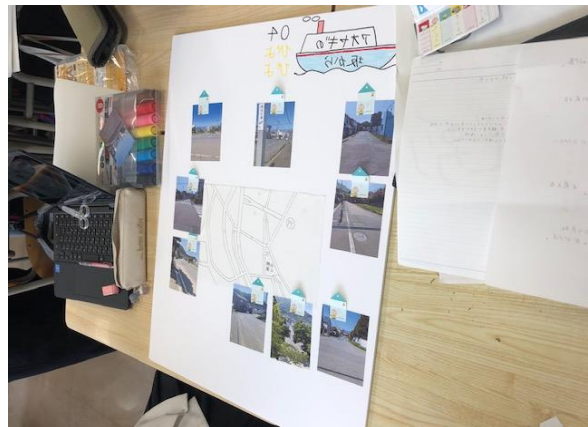
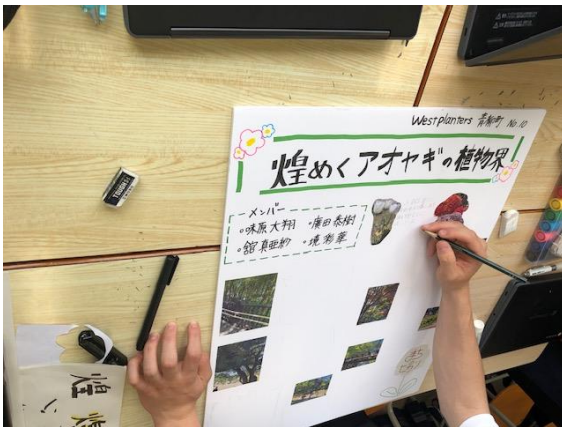
< 6月 >

いよいよ、パネル制作のスタートです。

グループごとにテーマを考え、テーマを表現する写真を選びました。

公立はこだて未来大学の岡本特命教授によるデザインについての講話では、見つけた「まちのヒカリ」をわかりやすい文章と図解で表現するよう助言があり、生徒たちはパネルのレイアウトやキャッチコピーなどに頭を悩ませます。

限られた時間の中で、慣れない作業に苦勞している様子も見られましたが、仲間と協力し合うことで、唯一無二のパネルが完成しました。



<6月27日>

制作したパネルの鑑賞会を行いました。

校内の至る所に60枚ものパネルが展示され、美術館のような雰囲気を感じます。生徒たちは、真剣な眼差しでじっくりと鑑賞しながら、感想をスマートフォンに入力していました。

約3ヶ月間にわたり、一生懸命に取り組んだ「まちのヒカリ」、来校者など多くの方の目に触れることで、生徒たちの自信につながったようです。

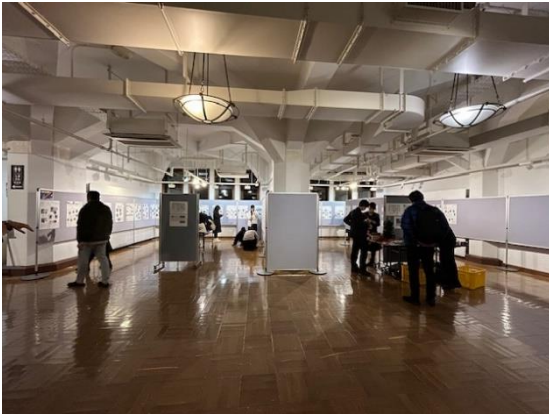


<12月15日>

函館市地域交流まちづくりセンターにて開催する展覧会の準備を行いました。

1枚ずつ丁寧にパネルを展示します。また、ご来場のみなさまからのメッセージをクリスマスツリーに装飾していただくためのカードも用意しました。

準備作業後は、(株)はこだて西部まちづく Re-Design 公式 YouTube チャンネル「函館西部地区ニュース」のインタビューを受け、活動を通して気がついたことや今後の取組などを話しました。



< 12月16日～25日 >

いよいよ、「まちのヒカリ展覧会」がスタートしました。

今回も、公立はこだて未来大学の協力により制作したポスターを町会に配付するなど周知に努めました。近くのお店の方からは「今年も西高の生徒さんの展覧会がありますか」と問合せをいただき、地域に定着しつつあることを実感します。

会場には、毎日多くの方にご来場いただき、感想などを記入していただいたメッセージカードがクリスマスツリーを埋め尽くしました。中には、「大町に行きたくなった」など、西部地区に出かけるきっかけになるようなメッセージもあり、「まちのヒカリ」の活動が、生徒だけでなく、地域のみなさまにもまちについて考えるきっかけになったように感じます。

ご来場いただいたみなさま、ありがとうございました。

4月から一生懸命に取り組んできた「まちのヒカリ」は、生徒たちが社会と関わる第一歩となり、社会とのつながりを考えるきっかけになったと思います。

「街灯をよく見るとハートが付いていて可愛い」、「いろいろなデザインのベンチがあり、休憩するだけでなく、写真を撮って楽しむことができる」など、高校生ならではの視点で「まちのヒカリ」を発見したグループや、「八幡坂だけでなく、常盤坂など他の坂の魅力も知ってほしい」など、地域の活性化につながる「まちのヒカリ」を発見をしたグループのほか、「たばこの吸い殻がたくさん落ちていた」、「西部地区には若者が少ない」など、西部地区の課題も発見したグループがあり、興味深い活動となりました。

1年生の後期では、グループごとに興味・関心のあるテーマを設定し、地域の企業や団体のみなさまにインタビューを行うなど、積極的に活動を続けています。

今後も、「総合的な探究の時間」を通して、社会と関わり、社会と自分のつながりを考えることで、西部地区をはじめ、函館というまちに自信と誇りを持てるよう活動していくことに期待しています。

